

平成 25 年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校 6 年）

【国語】★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことは概ね身についているが、話し合いの司会者となった場合の役割については、理解できていない児童も見られた。	国語の授業をはじめ、学級活動などを活用し、話し合いの司会者を経験できる機会を作っていく。また、司会者の役割について確認し、それらを意識した司会進行を心がけさせていく。
漢字	漢字を読むことに対しては、よくできていた。漢字を書くことについては、6年生までに習った漢字を書くことができない児童も見られた。	授業だけでなく宿題などでも復習を計画的に行わせる。また、日頃から漢字の練習を丁寧に行わせ、正しい漢字をきちんと覚えられるようにする。
言葉の学習	俳句についてはよく理解できていた。敬語については、まだ十分でなく、特に尊敬語の使い方の正答率が低かった。	尊敬語と謙譲語の違いについて確認し、理解を深めさせるとともに、簡単な尊敬語は積極的に使用させていく。
物語の内容を読み取る	物語の内容については、概ね読み取ることができていたが、登場人物の様子など細かいことの読み取りについては、十分でない児童も見られた。	物語を読む際に、登場人物の様子や気持ちの変化に焦点を絞って読む機会を作っていく。
説明文の内容を読み取る	説明文の内容について概ね読み取ることができていたが、文章の構成を的確に押さえながら読み取ることが十分でない児童も見られた。	説明文を読み取る際に、段落やまとめなどの要点を簡単にまとめながら内容を整理していく。その後、構成について考えたり、話し合ったりする場面などを作っていく。
パンフレットと話し合いの内容を読みとる	資料であるパンフレットや、それについての話し合いの内容を正しく読み取って、より良くするためにどうしたらよいかを考える問題の正答率が低かった。	パンフレットやその他の資料を見て、何を表した資料なのか、資料からどんなことを言いたいのかなどについて考える機会を増やしていく。
作文	作文を書く条件に従い、自分の考えやその理由についてきちんと書くことができていた児童が多かった。	作文の構成や文章と文章のつながりを意識して書くよう指導していく。

【社会】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	わたしたちの生活におけるメディアの種類や情報の役割については概ね理解できているが、ホームページなどを作る際に気をつけなければならない点などについて十分に理解できていない児童も見られた。	情報を利用する際の注意点について具体例を示し、実際の生活と関係させながら指導していく。
国土の自然などの様子	資料から林業の現状を読み取る問題はよくできていたが、環境を守る取り組みについて正しい判断をすることができない児童も見られた。	環境問題についての課題や様々な取り組みについて確認するとともに、自分たちにできることについて話し合う場を設ける。
歴史	いつの時代に、どんなことが起きたのかについて、概ね理解しているが、文化面や政策などについては正答率の低いものが見られた。	文化面や政策については、その時代背景などに関心をもつことで理解も深まると考える。暗記するだけでなく、関連させて考えるようにさせる。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	小数や分数のかけ算、わり算が十分に理解できていた。図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率は低かった。	問題を読んで乗法なのか、除法なのかを判断できるよう、練習問題を多く解かせ、問題に慣れるようにしていく。
量と測定	概ね理解できているが、時速を分速に直す問題、展開図から円柱の体積を求める式を選ぶ問題についての正答率が若干低かった。	時速、分速、秒速などの意味の確認や円、三角形、平行四辺形、台形の面積や円柱、多角柱などの体積を求める式を整理させる。
図形	線対称な図形の対応する点を見つけたり、円の半径から円周を求める式を見つけたりことが困難な児童も見られた。	線対称、点対称な図形の特徴や性質を具体物を操作しながら確認したり、円周の求め方を復習したりする。
数量関係	グラフを読み取ったり、比を簡単にしたりする問題でつまづいた児童が見られた。	グラフについては、読み方を確認する。比については、分数の約分や最大公約数を求める学習とも関連させながら、練習問題を多く解かせるようにする。

【理科】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	もののとけ方やものの燃え方と空気については実験の方法やその結果などを概ね理解することができていた。ふりこの実験に関する問題では、実験の計画を立てる問題の正答率が低かった。水溶液の性質とはたらきの学習で固体が溶けた2種類の水溶液を区別する方法を理解できていない児童が多く見られた。	実験の目的を明確にして見通しをもたせる。実験の際は、実験の方法を自分たちで考えさせる機会を作るとともに具体的な実験方法について確認しながら進めていくようにする。 実験結果については、自分で工夫してノートに整理し、頭の中も整理できるようにしていく。
生命・地球	動物のからだのはたらきに関する問題で消化液、だ液のはたらきや実験の結果についての正答率が低かった。植物のからだのはたらきや生き物のくらしと環境については十分に理解できている児童が多かった。	動物のからだのはたらきでは、これまでの生活経験から学習問題を作っていけるようにする。また、模型や映像資料を活用し、児童の理解とともに興味をもって学習できるように指導していく。